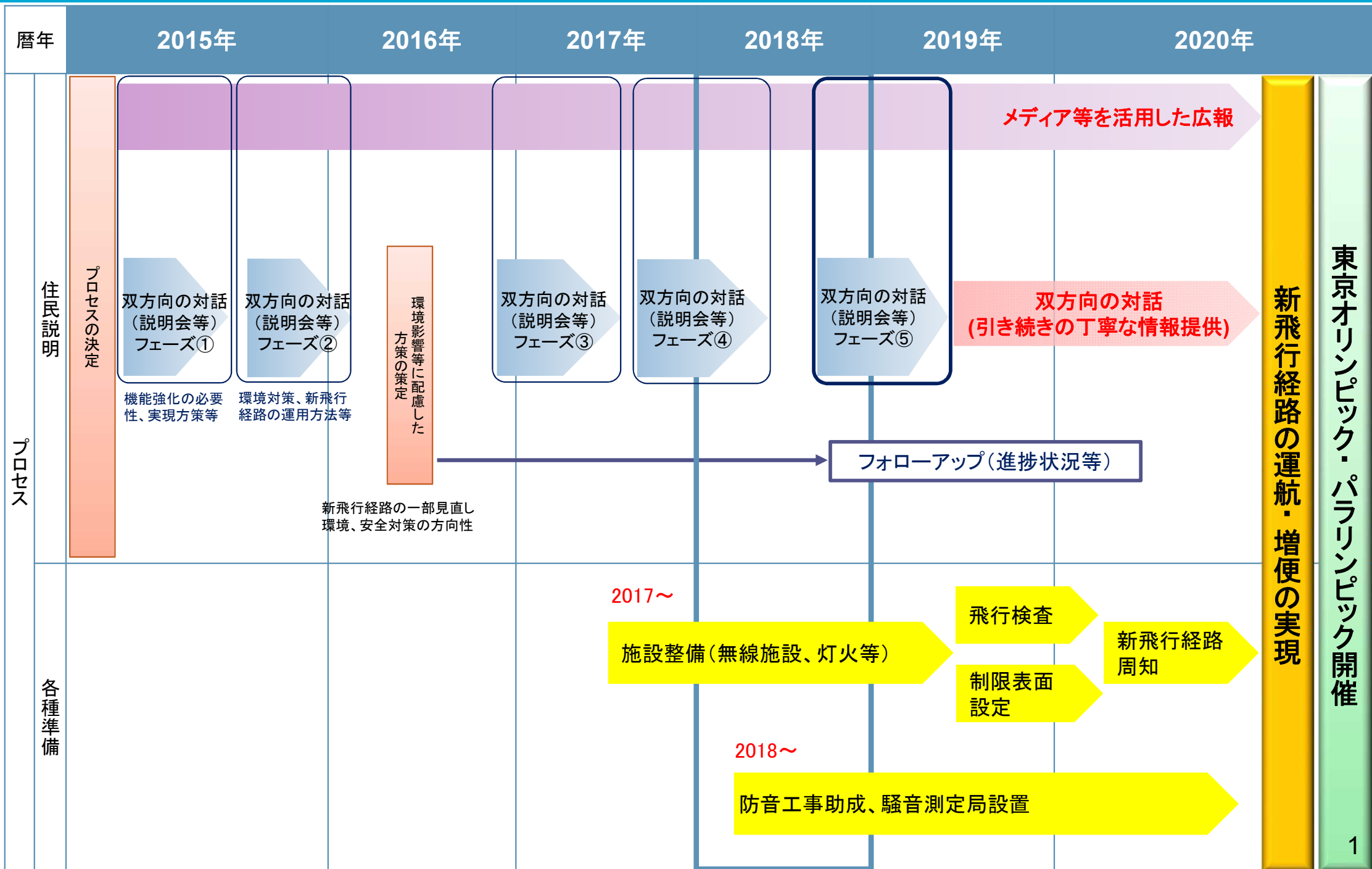


羽田空港機能強化に向けたこれまでの取組と 対応方策等

羽田空港機能強化に向けたプロセス



寄せられた主な意見とその対応方策等

寄せられた主な意見		対応方策等
騒音対策	住宅地やオフィス街を飛行するので、騒音影響が心配だ。	航空機による騒音の影響を少しでも緩和するため、低騒音機の導入を促進することを目的とした航空機の重量と騒音の要素を組み合わせた料金体系への見直しや着陸地点をずらすことによる高度引き上げ、使用便数の調整によるB滑走路からの出発機の便数の削減、北風時の新出発経路に係る朝の運用時間の後ろ倒し、北風時の現行到着経路に係る富津沖海上ルート of のさらなる活用といった、様々な騒音対策を実施。(P.10-17)
	騒音の状況に応じて、防音サッシの設置などによる防音工事をしたり、費用の補助をしてほしい。	南風時(年間約4割)の新飛行経路は3時間程度(15:00-19:00のうちの3時間程度)に限った運用であること等を考慮し、学校等に係る防音工事の助成制度の拡充を実施。 拡充後の制度に基づき、必要に応じ防音工事の補助を行う。(P.18,19)
安全対策	落下物対策をしっかりと行ってほしい。	住民説明会での意見を踏まえ、落下物対策総合パッケージを策定し、落下物防止対策基準の義務づけや補償等の充実などを実施。また、外航社も含め部品脱落の報告制度を拡充。 駐機中の機体チェックの強化等を通じ落下物防止対策基準の遵守を徹底させることにより、落下物対策の実効性を高めていく。(P.24-30)
	テロやハイジャック等の対策を強化する必要がある。	テロ等の脅威に備え、先進的な保安検査機器の導入を進めるなど、セキュリティ向上に向けた取組みを着実に実施。(P.36)

寄せられた主な意見とその対応方策

寄せられた主な意見		対応方策等
情報提供	今回の提案について、もっと多くの人に周知するべきである。	羽田空港の機能強化について一人でも多くの方にご理解いただけるよう、これまで5巡にわたり延べ97会場(延べ163日間)においてオープンハウス型説明会を開催。また、説明会に加え、新聞折り込み広告や電車内の動画・窓上広告等の実施、情報発信拠点の設置など、様々な手法で丁寧な情報提供を実施。 引き続き丁寧な情報提供を実施していく。(P.4-6,21-23,34,35)
	住民間で意見共有がしにくい。集会型、教室型の説明会も開催してほしい。	オープンハウス型の住民説明会に加え、情報提供手法の一つとして、要請があった関係自治体と相談のうえ地域説明会等を随時開催。第5フェーズ説明会開催以降も、オープンハウス型説明会と並行して地域説明会等を26回開催、約1,400人の方々が参加(2019年3月末時点)。 また、ニュースレター等の活用を通じて、説明会や特設電話窓口等で寄せられたご意見を幅広く公表。(P.31-35)
	決定された方策の内容(飛行経路、高度、便数、騒音値など)については、引き続き情報を提供してほしい。	上記の様々な情報提供において、飛行経路案、想定される高度・騒音値など、丁寧な情報提供を実施。 引き続き丁寧な情報提供を実施していく。(P.4-6,21-23,31-35)
その他	住環境が悪化することで不動産の価値が下がったり、入居者が減少することを懸念している。	航空機の飛行経路と不動産価値の変動との間に直接的な因果関係を見出すことは難しい。
	ヘッドホンだけでは実感がわからない。実際の音を聞いてみたいので試験飛行(テスト飛行)をしてほしい。	試験飛行の実施には航空保安施設の整備や管制官の訓練が必要だが、これらが完了していない、羽田空港の現行の運用を一定期間停止する必要がある、といった課題を踏まえると、現時点では試験飛行の実施は難しい状況。 施設整備の状況等も踏まえつつ、実施の可否も含めて検討。
	今後、技術革新の進捗や羽田空港の需要に応じて、経路の見直しをしてほしい。	引き続き技術進歩を取り入れながら検討を行っていく。